

# カリキュラム開発研究 研究構想図

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
千代田区立千代田小学校 主任教諭 鈴木 晶子

<b>【社会背景】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力が子供たちに求められる資質・能力の一つとして掲げられる。「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会, 2016）</li></ul> <b>【今日的な教育課題】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『対話的な学び』が実現できているか」という視点からの授業改善が求められる。「小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月）」</li></ul>	<b>【東京都教育委員会の教育目標】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間</li><li>社会の一員として、社会に貢献しようとする人間</li><li>自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間</li></ul> <b>【東京都教育ビジョン（第5次）】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>○基本的な方針1 施策展開の方向性②『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進</li><li>・話し合い等の活動で、自分の考えを深めたり、広げたりする児童の育成</li><li>・子供が自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業づくりの推進</li><li>・デジタルを活用したこれからの学びの推進</li></ul>	<b>【教科等の課題】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「目的や意図に応じて、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に関する問題番号[2]の東京都の正答率は56.4%、無回答率は5.8%である。目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。「令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語」（文部科学省, 2024）</li></ul> <b>【所属校の実態】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>問題番号[2]の自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに関する所属校正答率は44.6%、無回答率は7.1%である。「令和6年度全国学力・学習状況調査結果資料」（文部科学省, 2024）</li></ul>
--	---	---

<b>【育てたい児童像】</b> <p>目的や意図に応じて、感想や意見を伝え合いながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童</p>
---

<b>【先行研究】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「令和5年度 教育研究員研究報告書 小学校・国語 自分の考えが伝わるように書く指導法の工夫」（東京都教育委員会, 2023）</li><li>「令和6年度 東京都教職員センター紀要 第24号 子供が自ら伸び育つ力を育むデジタルを活用した授業デザインに関する研究（2年次）」（東京都教職員研修センター, 2024）</li></ul>
--

<b>【研究主題】</b> <p>自分の感想や意見を他者と伝え合い、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童の育成 —国語科での書く活動における、デジタルを活用した学びを通して—</p>
---

<b>【主題設定の理由】</b> <p>「令和6年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省, 2024）で、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると示された。令和3年度から令和6年度までの同報告書によると、思考力、判断力、表現力等の領域で「話すこと・聞くこと」の平均正答率69.2%、「読むこと」の平均正答率64.1%、「書くこと」の平均正答率51.1%であり「書くこと」の平均正答率が最も低かった。その中でも「考えの形成、記述」は平均正答率が46.7%、平均無回答率7.1%であることから、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を高める必要があると考えられる。また、「小学校学習指導要領解説国語編（平成29年7月）」では、文章に対する感想や意見を伝え合う際に、児童一人が書き終えた文章に加えて、題材の設定、情報の収集、内容の検討、構成の検討など、学習過程の各段階のメモについても共有することなどが示されている。「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた小学校授業アイデア例」（文部科学省, 2021）では、「自分の考えが妥当な理由に支えられているか、事例が客観的な事実裏付けられているかを確認することが大切」で、その際、「友達と互いに確認し合うことで自分の考えがより深まるようにすることが効果的」と記されている。書くことの学習過程で、書く目的を確認することに加えて、内容や構成を互いに確認し合い、自分の感想や意見を他者と伝え合い、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童を育成する。</p> <b>【副主題設定の理由】</b> <p>東京都教育ビジョン（第5次）では、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進の主な施策展開の1つに「デジタルを活用したこれからの学び」が示された。本研究では、子供同士がお互いの文章に意見や感想を記入したり、友達の文章を読んで参考にしたりのしながら、自分の感想や意見を他者と伝え合うことができるようデジタル教材を活用する。さらにデジタル教材を活用することで、構成を検討する際に自分だけで書いた文章を保存し、相互コメントで友達と互いに確認し合う。その後、筋道の通った文章になっているかチェックシートで再考して書き表す。また、付箋機能で書いた情報から、目的や意図、相手に合った内容を選ぶ。その文章と自分だけで書いた文章を比べて、他者と学び一層力が付いたか、振り返ることができる。書くことの学習過程に、感想や意見を伝え合い自分の文章を見直すことのできるデジタルを活用した学びを関連付けて用い、「自分の感想や意見を他者と伝え合い、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童の育成」を図る。</p>
---

<b>【研究仮説】</b> <p>児童が感想や意見を他者と伝え合う学習活動において、デジタルを効果的に活用した手だてを講じることで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童を育成できるだろう。</p>
--

	目的	資料・方法（実施予定月）
基礎	<ul style="list-style-type: none"><li>東京都教育施策大綱、東京都教育ビジョン（第5次）と本研究との関連性をまとめる。</li><li>「書くこと」における「デジタル教材の活用」について先行研究を調べる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>文献調査（4・5月）</li><li>各種実践事例調査（4～6月）</li></ul>
調査	<ul style="list-style-type: none"><li>国語科「書くこと」に関して「難しいと感じる点」や「課題への手だて」「デジタル教材の活用状況」について所属校と所属地区の児童及び教員にアンケート調査を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>研究対象校の授業見学（5月～6月）</li><li>アンケート調査（7月）</li></ul>
開発	<ul style="list-style-type: none"><li>書く活動において、自分の意見や感想を他者と共有することのできるデジタルを活用した学びを開発する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>学習指導案の作成（5月～8月）</li><li>教材の開発（6月～8月）</li></ul>
検証	<ul style="list-style-type: none"><li>検証授業を、千代田区立千代田小学校 第5学年の国語科「B書くこと」・「あなたは、どう考える」で行う。</li><li>授業の理解度を児童の記述・アンケート調査の分析から行い、児童の変容を明らかにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>検証授業の実施（10月）</li><li>検証授業のアンケート調査の分析、成果と課題の検証（11月）</li><li>検証授業を実践事例とした成果物の作成（12月）</li></ul>

## 研究主題

「自分の感想や意見を他者と伝え合い、自分の考えが伝わるように

書き表し方を工夫することができる児童の育成

－国語科での書く活動における、デジタルを活用した学びを通して－

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

千代田区立千代田小学校 主任教諭 鈴木 晶子

### 第1 研究のねらい

「令和6年度全国学力・学習状況調査 報告書」(文部科学省)では、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問(小学校国語「書くこと」②二)において、正答率が56.7%であり、「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)の指導事項に課題があることが明らかになった。また、令和3年度から令和6年度までの同報告書において、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域のうち、平均正答率が最も低い領域は「書くこと」であり、「書くこと」の指導の充実が重要であると考えた。

「令和3年度全国学力・学習状況調査 授業アイディア例」(国立教育政策研究所)では、「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)における指導の工夫として、「自分の考えが妥当な理由に支えられているか、事例が客観的な事象に裏付けられているかを確認させること」、「その際、友達と互いに確認し合うことで、自分の考えがより深まるようにすることが効果的」であることが示された。

また、「東京都教育ビジョン(第5次)」(東京都教育委員会)では、「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善の推進」のために、「デジタルを活用したこれからの学び」が示され、国語科の指導においても、より一層デジタルを活用した指導の充実が求められている。令和2年9月に示された「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について【概要】」(文部科学省)では、「各学習過程における国語科の指導において、ICTの効果的な活用方法や活用場面を考え、実践していくことが重要」と示されており、学習過程を意識してデジタルを効果的に活用することが重要だと考えた。

以上のことを踏まえて、本研究ではデジタルを活用しながら、児童が感想や意見を伝え合う学びを重視し、「自分の感想や意見を他者と伝え合い、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童の育成」を図る。

### 第2 研究仮説

児童が感想や意見を他者と伝え合う学習活動において、デジタルを効果的に活用した手だてを講じることで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童を育成できるだろう。

### 第3 研究の内容と方法

#### 1 基礎研究

「小学校学習指導要領解説国語編(平成29年7月)」では、「B 書くこと(1)ウ」(考えの形成、記述)について、「自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫すること」と示されてい

る。感想や意見を他者と伝え合うことで、他者が書こうとしたことが明確に表現されているところを見付け、書く目的などを確認し合い、児童が自分の考えを明確にすることが大切であると考えた。「令和5年度 教育研究員研究報告書 小学校・国語 自分の考えが伝わるように書く指導法の工夫」（東京都教育委員会）では、推こうの際、文や文章を整えるための手だて等を用いて自分の考えが伝わるように書くことができる児童の育成を目指していた。

また、全国学力・学習状況調査等から国語科の課題を分析して本研究との関連性をまとめるとともに、「書くこと」における「デジタルを効果的に活用した」先行研究や実践事例等を収集・分析し、上述の研究仮説を立てた。

## 2 調査研究

令和7年7月に都内公立小学校1校の第5学年児童52人と、都内公立小学校8校の第5・6学年学級担任29人を対象とし、国語科「書くこと」における授業の実態と、デジタルの活用状況についてアンケート調査を行った。

児童に行ったアンケート調査では、「文章を書く学習で気を付けていることは何か」というアンケート項目について、「文章を書くときは、分かりやすく伝わるように話の流れを考えている」という回答が約73%だった。多くの児童が文章全体の構成に関心をもって取り組んでいることが明らかとなった。一方、「文章を書くときは、自分が伝えたいことに合わせて事実と感想、意見を分けて書き、考えが伝わるように工夫している」という回答は約44%であり、書き表し方の工夫について課題があることが明らかとなった。

教員に行ったアンケート調査では、「書くこと」の学習におけるデジタルの活用状況は、自分の考えを深める場面で約13%、授業を振り返る場面で約17%と、低い活用状況だった。「書くこと」の指導において、より効果的にデジタルを活用できる手だてを講じる必要がある。

「どの場面で話合いの場を設けているか」という項目では、考えの形成、記述の回答が、他の回答に比べて、最も低い数値だった。「令和3年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例」でも示されているように、児童が他者の意見に触れ、自分の考えがより深まるよう、文章について改善する力を育てることができるための指導の工夫が求められる。

## 3 開発研究

デジタルを活用した学習活動を設定し、児童が文章や集めた材料について感想や意見を他者と伝え合うことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるよう次の(1)から(4)までの手だてを講じる。これらの手だてを、学習過程と関連付けながら効果的に活用していく。

### (1) 相互コメント

児童がデジタル上で書いた文章を読み合い、よいところや補ったほうがよい点、疑問点等を伝え合うことができるようにする。

### (2) チェックシート

文章を書く際に、児童が書き表し方の工夫を意識しながら書くことができるチェックシートを作成する。

### (3) 付箋機能

収集した材料を目的や相手を意識して選択・整理し、伝えたいことを明確にすることができる付箋機能を活用する。

#### (4) 振り返りシート

学びの過程を可視化するために、自分が最初に書いていた文章と、他者と協力し考えを深めた後の文章を比較することができる振り返りシートを作成した。学びを振り返るために、振り返りシートを活用し、めあてを基に毎時間学びの変容を自覚できるようにした。

### 4 検証授業の概要

都内公立小学校において、第5学年（61人）を対象に、国語科（単元名「あなたは、どう考える」全6時間扱い）で検証授業を実施した。本単元の重点目標の一つは、「書くこと」において、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くことで、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。」（B(1)ウ）である。この重点目標の達成を目指し、児童が感想や意見を伝え合い、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる活動を取り入れて、検証授業を実践した。

### 5 検証授業の分析

検証授業実践後、第5学年（58人）を対象に分析をした。分析の方法は、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を単元の評価規準に照らし合わせて、数値化することである。具体的には、「知識・技能」の「① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。」（(1)オ）を評価する場合は、十分に満足できていた場合3点、おおむね満足できていた場合を2点、努力を要する場合を1点とした。「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価規準はそれぞれいくつかあり、全6時間の中で両者を合わせて総合得点を18点満点とした。

その結果、総合得点の平均は事前9.9点から事後15.8点へと5.9点上昇した。また、標準偏差は3.9から1.4へと2.5縮小し、総合得点の全体の底上げと学力差の縮小が確認された。さらに、事前・事後の得点について対応のあるt検定を行ったところ、 $t(57)=11.84$ となり、この得点の向上は統計的に有意であることが確認された（ $p<.01$ ）。あわせて効果（Cohen's  $d$ ）を算出したところ、 $d=1.55$ となり、本実践は教育研究において「大きい」とされる学習効果を有することが明らかとなった。このことから、本実践は一部の児童に限定された効果ではなく、学級全体の学力向上に寄与したと考えられる。

学習過程において（1）相互コメントから（4）振り返りシートまでの手だてを関連付けて用いたことは、児童が自分の感想や意見を他者と伝え合いながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を育成する上で有効であったと考えられる。

#### (1) 相互コメント

相互コメントによる児童の文章の変化を分析した（表1）。

表1 相互コメントによる児童の文章の変容分析

児童	相互コメント前の文章	他の児童からのコメント	相互コメント後の文章
児童A	昔はキャラクターがいなかった。	昔もおしば居や歌ぶきなどに出てくるキャラクターがいて人々は楽しんでたよ。	昔もキャラクターがいた。今も、いろいろなキャラクターがいる。キャラクターがいると楽

			しい。
児童 B	スマホゲームはカードのパックをひいたらつまらなくなる。	つまらなくなるというところをもう少しわしく書くといよ。	スマホゲームは、カードのパックをひくときは、楽しみだけで、ひいたらつまらなくなるので、長時間やるゲームには向いていない。

児童Aは、キャラクターは必要だ、という主張で意見文を書いた。予想される反論には、キャラクターはいなくてもいいと考える人がいる、と書いた。反論に対する考えは、昔はキャラクターがいなかったとした。内容の検討において他の児童が、昔もキャラクターがいて人々が楽しんでいとコメントしたことを受けて、昔も今もキャラクターがいて、キャラクターがいることで楽しめる、だからキャラクターは必要だと、事実と感想や意見との関係を十分捉えて書く姿が見られた。

児童Bは、トレーディングカードゲームよりスマホゲームのほうがよい、という主張で意見文を書いた。予想される反論には、スマホゲームは目が悪くなると考える人がいる、とした。反論に対する考えは、スマホゲームはカードのパックをひいたらつまらなくなるから、目が悪くなるほどはやらない、と書いた。他の児童が、つまらなくなるというところをもう少し詳しく書くといよとコメントしたことを受け、スマホゲームはカードのパックをひくときは楽しいが、ひいた後はつまらなくなるから長時間やることは少なく、目が悪くなる心配はない、と書いた。学習の振り返りにおいて、「アドバイスをもらえて直せたから、客観的に読みたい。」と書くなど、読み手を意識して文章を書く姿が見られた。

「いつも一人で文章を作成するけど、友達と交流することで自分の文章の良いところや悪いところまで分かって、自分の文に付け足せた。」など、相互コメントについて肯定的に受け止めている児童は約9割であった。わずかな時間で効率的に意見の伝え合いができ、伝え合った情報が記録として残るため、自分だけで文章を書くよりも内容を吟味して文章を書くことができ、書き表し方の工夫を促すことにつながった。

## (2) チェックシート

チェックシートを活用し児童の文章の変化を分析した。(表2)。

表2 チェックシートによる児童の文章の変容分析

児童	予想される反論	反論に対する考え	チェックシートの項目
児童C	内食は、調理やかたづけに時間がかかると思う人がいるかもしれません。	最近の時短料理が流行っています。	<input checked="" type="checkbox"/> 主張に合った予想される反論を選んだ。
児童D	電車やバスのゆう先席は必要ないという考えの人もいます。	もしゆう先席がなかったら体が不自由な方や、自分や家族の体調が悪いときにこまります。	<input checked="" type="checkbox"/> 伝える相手を意識した。

内容の検討において、児童Cは外食より内食がいい、という主張で意見文を書いた。予想される反論は、内食は調理や片付けに時間がかかると思う人もいるかもしれない、とした。反論に対する考えには、最近の時短料理が流行っている、と書いた。主張に合った予想される反論

を選んだ、とチェックシートもチェックし、振り返りにおいて、「前はアドバイスをもらったけれど、今回は、共感してもらえました。」と書くなど目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて自信を深めていた。

児童Dは、電車やバスの優先席が必要だ、という主張で意見文を書いた。予想される反論は、電車やバスの優先席は必要ないと考える人もいる、とした。反論に対する考えについて、当初、優先席がなかったら体が不自由な方が困るとしていた。その後チェックシートで、伝える相手である家族を意識することを確認した。そして、優先席がなかったら体が不自由な方や自分や家族の体調が悪い時に困る、と伝えたい相手である家族にも説得力がある文の内容を意識して書くことができた。

表3 チェックシートによる児童の文章の変容分析

児童	下書き	チェックシート	考えの形成・記述における修正点
児童E	早口言葉は必要だ。	【主張を述べる時】 <input checked="" type="checkbox"/> と考える。	早口言葉は必要だと <u>考える。</u>
	「〇〇」というサイトで	【根拠を示す時】 <input checked="" type="checkbox"/> によると、	「〇〇」というサイト <u>によると、</u>
	早口言葉で遊ぶことは、のを活性化させたり、記おく力が上がったりする。	【これまでの考えをまとめる時】 <input checked="" type="checkbox"/> このように	<u>このように、</u> 早口言葉で遊ぶことは、脳を活性化させたり、記おく力が上がったりする。

また、考えの形成・記述においては、児童Eはチェックシートを基に書き表し方を工夫する姿が見られた(表3)。児童Eは、早口言葉は必要だ、という主張で意見文を書いた。チェックシートで、主張を述べる時の文末は「と考える」とすることを確認し、早口言葉は必要だと考える、とした。学習の振り返りでは「説得力のある文にするには使われている言葉を区別する必要があるということが分かった。」など、事実と感想、意見とを区別して書き自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する姿が見られた。「はじめはただ自分の意見を書いただけだったけど、読み直したら説得力がたりなかったと気付いた。」など、相手意識をもって文章を書き表すなど、チェックシートを活用した学習を肯定的に受け止めている児童は約8割であり、書き表し方の工夫を促すことにつながった。

### (3) 付箋機能

付箋機能を活用した児童の文章の変化を分析した(表4)。

表4 付箋機能を使用した児童の文章の変容分析

児童	付箋に記述した根拠	他の児童からのコメント	内容の検討における修正点
児童F	小学生にスマートフォンは必要だ。 根きょ①インターネットに接続できる。 根きょ②外出先でも行き方を調べることができる。	根きょ①は、主張にあまり関係ないかもしれない。	スマートフォンで行き先を調べ、目的地に行けるといいう、主張に合った根拠を構成で選んだ。

児童Fは、小学生にスマートフォンは必要だという主張で意見文を書いた。その根拠を①インターネットに接続できる、②外出先でも行き方を調べることができる、とした。内容の検討において、調べた根拠①に対して、他の児童からの「主張にあまり関係ないかもしれない。」というコメントがあった。それを受けて、主張について説得力をもたせて書くことができるよう、スマートフォンで行き先を調べ、目的地に行けるという根拠②だけを選んだ。デジタル上の付箋機能を活用することで、複数の情報から目的に合った情報を取捨選択することができたといえる。

一方、付箋を活用した学習について、肯定的な振り返りは約1割に留まった。目的や意図、相手に応じて適切な材料を選んだり、優先順位を考えたりし、書く内容を整理することに生かされた児童は一部であり、書き表し方の工夫を意識できるようにするための工夫がより必要であった。

#### (4) 振り返りシート

振り返りシートの活用について、「書き表し方の工夫ができた、分かった。」という肯定的な意見は約7割であった。「伝えたい人と主張を考えて書くといいことが分かった。」と、最初に書いていた文章と他者と協力し考えを深めた後の文章を比較することで、目的や意図に応じて書くことを振り返っていた。また、「出来事だけを根きょに書くのではなくて、調べた情報も書く。」など、自分の考えたことが客観的な事象に裏付けられたものになっていることや、事実と感想、意見を区別して書くことを意識した振り返りが見られた。

その一方で、「楽しかった」、「もっと調べたい」等、活動自体の感想にとどまり、書き表し方の工夫の観点に言及できなかった児童も見られた。文章を比較する際に、どのような視点で学びを振り返ればよいか提示するなど、自身の学びを自覚する手だてが重要である。

#### (5) 学習過程に(1)から(4)までの手だてを関連付けたデジタルを活用した学び

(1)から(4)までの手だてについて、効果的な活用場面を学習過程に関連付けて書く活動を振り返った。「感想や意見を伝え合いながら考えを深めることで、説得力のある書き方の工夫ができたか」ということについては「文章に根きょになる数字を入れたので、前と比べたら分かりやすくできていると思う。」など、肯定的な意見が約9割を占めている。デジタルを活用して児童同士が伝え合いをする学びを学習過程に関連付けることで、書き表し方の工夫をすることができた。

### 第4 研究の成果

感想や意見を他者と伝え合う学習活動において、デジタルを効果的に活用した手だてを講じることで、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童が増えた。また、本研究で取り入れた(1)から(4)までの手だてを学習過程に関連付けて用いることで書き表し方の工夫の理解と意識の向上につながった。

### 第5 今後の課題

付箋を活用した手だてについては、情報収集の必要性を感じた児童への支援が課題として残った。情報収集の際に、事実と感想や意見との関係を十分捉えることができるよう、文章モデルを用いながら書くために必要な情報を具体的に提示し、児童が見通しをもって、学習できるようにする。また、振り返りが内容理解や活動自体の感想にとどまる児童も見られた。児童自

身が単元の目標との関係を捉え、自身の学びを自覚できるように常に単元の目標を可視化し振り返りの際に意識させることが有効だと考える。